

水産衛生対策（内水面）

河合俊輔・内海遼一（内水面試験地）

目的

将来にわたって、安全な養殖生産物を安定的に供給していくためには、伝染性疾病的発生予防・まん延防止による食料の安定供給体制の整備等を地域の水産業や食品流通等の実態に応じて機動的かつ総合的に実施していく必要がある¹⁾。

また、都道府県は、養殖水産動物の疾病的発生を予防するために、魚病の発生に関する情報収集、検査を実施するとともに、養殖業者への衛生管理指導・啓発を行い、魚病の発生予防、早期発見、まん延防止を推進するとされている²⁾。

本事業では、養殖水産動物の防疫指導を適切に行うことで疾病的まん延防止を図り、安心・安全な生産・供給体制を確立することを目的に、内水面での養殖衛生管理体制の整備を推進してきた。なお、本事業は、消費・安全対策交付金（交付率：50%）及び県費により実施した。

方 法

1. 養殖場の巡回指導

令和3年4月～令和4年3月に、内水面養殖場の巡回指導を行った。

2. 魚病検査、健康診断及びアユの放流前保菌検査

養殖業者から診断を依頼されたものや、巡回指導時に採取した検体について魚病検査を行い、検査結果に応じた魚病対策指導を行った。方法は外部症状や内臓の病変等を観察するとともに、寄生虫の有無を調べ、腎臓から菌分離を行った。分離菌は抗血清又はPCR法により同定した。

健康診断は、アユでは、冷水病、エドワジエラ・イクタルリ感染症、エロモナス症、カラムナリス症及び異型細胞性鰓病について、アマゴでは、市販ワクチン接種前または放流前の健康診断としてビブリオ病及び冷水病について、オイカワでは、放流前に冷水病について、原因細菌又はウイルスの保有状況を検査した。

アユの放流前保菌検査は、河川・湖沼への病原体のまん延を防止するために、河川放流直前のアユ種苗について種苗生産業者及び中間育成業者を対象に実施した。対象疾病は冷水病とエドワジエラ・イクタルリ感染症であり、アユ疾病に関する防疫指針³⁾に基づいた方法で行った。

3. 医薬品残留検査

内水面養殖業における水産用医薬品の適正使用指導に資するため、スルフィソゾールの残留検査を外部委託（委託先：一般財団法人日本食品検査）により行った。供試魚は県北部及び南部の各1業者から当該医薬品の投薬歴がある出荷直前のアユ50個体とした。方法はアユの筋肉部5尾分をホモジナイズして1検体とし、合計10検体について、高速液体クロマトグラフによるスルフィソゾール試験法⁴⁾とした。

結果及び考察

1. 養殖場の巡回指導

養殖業者に対して、魚病対策指導及び水産用医薬品の適正指導を実施し、魚病検査又は保菌検査に供する検体を採取した。

2. 魚病検査、健康診断及びアユの放流前保菌検査

（1）魚病検査

魚病検査について、令和3年度魚種別・月別魚病検査件数を表1に示す。全体の件数は2魚種で18件であつ

た。アユでは冷水病が8月と9月に人工産種苗で2件、細菌性鰓病が6月に海産種苗で、9月に人工産種苗で各1件、エドワジエラ・イクタルリ感染症が7月と8月に琵琶湖産種苗で2件発生した。また、イクチオホヌス症が9月に海産種苗で、エロモナス症が7月に琵琶湖産で、ガス病が3月に人工産種苗で、チョウチン病が7月に海産種苗で、ミズカビ病が3月に海産種苗で、各1件発生した。また、不明病が6月と9月に発生し、前者は体表に潰瘍症状を伴い、後者は内臓に出血症状を伴うへい死であった。アマゴでは、冷水病が6月と1月に2件、テトラオニクス症が2月に2件、内臓真菌症が3月に1件発生した。

(2) 健康診断

全体の件数は3魚種で9件であった。アユでは、1月から3月に合計7件実施し、うち、ビブリオ病細菌とエロモナス症細菌が2月、3月に各1件保菌が確認された。アマゴでは、1月に1件、オイカワでは、1月に1件実施し、いずれのロットも陰性であった。

(3) アユの放流前保菌検査

令和3年度種苗別・月別保菌検査件数を表2に示す。全体の件数は17件で、うち人工産種苗が11件、海産種苗が6件であった。全ての検体で冷水病細菌及びエドワジエラ・イクタルリ感染症原因菌の保菌は確認されなかった。

表1 令和3年度魚種別・月別魚病検査・健康診断件数

検査種類	魚種	診断状況	2021										2022			総計
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
魚病検査	アユ	冷水病					1	1								2
		細菌性鰓病				1		1								2
		エドワジエラ・イクタルリ感染症				1	1									2
		イクチオホヌス症							1							1
		エロモナス症					1									1
		ガス病											1		1	
		チョウチン病					1									1
		ミズカビ病											1		1	
		不明				1			1							2
												1		2		
アマゴ	アマゴ	冷水病				1						1		2		2
		テトラオニクス症										2		2		
		内臓真菌症											1	1		
合計			0	0	3	3	2	4	0	0	0	0	1	2	3	18
健康診断	アユ	ビブリオ病											1		1	
		エロモナス症											1		1	
		保菌なし										1	3	1	5	
												1		1		
アマゴ	アマゴ	保菌なし											1		1	
		オイカワ	保菌なし										1		1	
合計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	2	9
総計			0	0	3	3	2	4	0	0	0	0	4	6	5	27

表2 令和3年度アユ種苗別・月別保菌検査件数

種苗	検査状況	2021										2022			総計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
人工産	保菌なし	5										6		11	
海 産	保菌なし	2										4		6	
総計		7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10		17	

3. 医薬品残留検査

いずれの検体からも、スルフィソゾールは検出されなかった。

文 献

- 農林水産省（2021）消費・安全対策交付金実施要綱。令和3年1月28日2消安第4897号、第1。
- 農林水産省（2020）水産防疫対策要綱。令和2年12月21日。

- 3) アユ疾病対策協議会（2011）アユ疾病に関する防疫指針. 平成 23 年 12 月.
- 4) 平成 17 年 1 月 24 日付け食安発第 0124001 号厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知. 「食品に残留する農薬, 飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」別添「食品に残留する農薬, 飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法」